



妙見宮祭礼絵巻に描かれている白和幣 (市立博物館提供)



2015.JANUARY

No.121

女性が堂々と祭に参加 同窓会の輪の広がりにも期待

八代白百合学園同窓会「^{このはな}ス華会」
白和幣保存会 会長
守田 恭子さん

(千反町1丁目)

『妙見祭は男祭』と思ってきた。祭は見るもの。笠鉾が出る紺屋町に育ったが、手伝いをするにはあっても表に出る機会はなかった。

ところが、女性が堂々と胸を張って参加できる出し物があった。

2014年8月、八代白百合学園同窓会「ス華会」の総会で、八代妙見祭保存振興会会長の濱大八郎さんに妙見祭についての講演を依頼。その中で、妙見祭が2016年の国連教育科学文化機関(ユネスコ)無形文化遺産登録を目指していること、神幸行列に唯一「白和幣」が欠けていることの話があり、「同窓会で復元に協力してもらえるといいんですが」と濱さんから投げかけがあったという。

その後、同窓会役員などが集まる機会に、市や祭の関係者から具体的な説明を受ける中で参加することが決まる。話を聞いた役員や会員の中から参加希望者が次第に集まっていった。同窓会を母体とした白和幣保存会が結成される。

今回、祭に参加したのは16人。同窓会の会員12人に、男性は白百合学園高校の校長先生など4人の先生に協力してもらった。他に、行列での付き添いや着

替えの運搬、後片付けなどに4人の同窓会会員が応援してくれた。「御幣は妙見宮の小林宮司に作っていただきました。私の帯は、同窓会会員が100年前のりっぱなものを提供してくれました」不足している着物や袴の提供、着替える場所の確保など、祭まで短期間だったが参加に向けての協力があつた。ありがたいかたという。「なんとか形になってよかった」当日は天気にも恵まれ、みんな元気に楽しんで歩くことができたようだ。

祭に参加して驚いたのは、見物に外国の人が多くいること。行列行進の待ち時間に、一緒に写真に写ってくれるよう何度も外国の人から頼まれた。御夜で参加した八代妙見紅道中の踊りを終えた後もそうだったという。

「着物はお引きずりをお抱えで歩くのが正式だそうです。また、絵巻を見ると24人の男女が歩いているので参加者もさらに募り、次はより絵巻に近づけた」と語る。「同窓会で取り組める行事がひとつ増えました。これが、さらに会員の輪の広がりにつながっていくとうれしい」と思いがけない祭りへの参加の機会を喜んでいる。

- 3 新年のごあいさつ
- 4 走り水ノ瀧 国名勝指定へ
- 6 祝 高専八代 ロボコン日本一
- 8 特集
くまもと県南フードバレー構想
- 14 暮らしの情報
- 16 市民カレンダー
- 18 暮らしの情報
- 24 広告
- 28 まちのわだい
麦島勝さんへ感謝状
ひなたぼっこ開所
人権子ども集会フェスティバルinやつしろ
全国高専デザインコンペで最優秀賞
ちびっこ妙見祭
妙見祭笠鉾組立見学ツアー
他10件
- 31 伝言板
- 32 宝くじおしゃべり音楽館

今月の表紙



小春日和となった11月23日の妙見祭。御幣の付いた青竹をささげ持つ一群は、神幸行列に復活した「白和幣」の人たちです。こ

れで約200年前の妙見宮祭礼絵巻に描かれた40種の出し物が、戦後初めて全て勢ぞろい。八代妙見祭の2016年の国連教育科学文化機関(ユネスコ)無形文化遺産登録に向けた、大きな弾みになりました。